令和５年度第１回我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会　議事録

開催日時　令和５年５月29日　午後２時から４時まで
会　　場　我孫子市水道局大会議室
出 席 者　委員10名（２名欠席）、事務局９名　（傍聴人５人（上限））

【本議事録の表記に関して】
　議事中に出てくる学校名等について、次のとおり略記する。
布佐小学校：布小
布佐南小学校：南小
布佐中学校：布中
布佐小学校、布佐南小学校、布佐中学校の総称：三校

１　開会
（省略）

２　教育長あいさつ
　５月20日、21日、27日に小学校13校において運動会が開催された。久しぶりの応援合戦や全校が揃っての開閉会式など、子どもたちが昨年度よりもより輝いているように思えた。また、中学校も各校とも宿泊学習を実施している。校長からはとても充実感あふれる顔で生徒たちもよく頑張っていたという報告を受けている。コロナ禍の3年間という長い期間であったが、徐々に通常の学校行事等もできるようにしていきたい。
　お配りした児童生徒推計資料について、私から補足説明をしたい。令和５年５月１日現在の児童生徒数は小学生5,561人、中学生2,884人の合計8,445人である。昨年度と比べてみると、小学生で180人、中学生で31人の合計211人減というような状況になっている。布佐中学校区を見てみると、減少は緩やかではあるが、小学校における単学級の解消には至っていない。
また、湖北台中区については、今現在は布佐中区と254人の差があるが、７年後の令和12年度を見ると50人程度の差になってくる。現在、湖北台西小学校では、１年生と２年生が単学級であり、湖北台東小学校についても、１年生から

３年生までが単学級となっている。いずれ、布佐中学校区と同じように、湖北台中区に関しても検討を始めなくてはいけないと考えている。我孫子市全体で見ると、まだ検討不要の地区もあるが、定めている適正規模に合った形で検討を進めていかなければならないと考えている。
今年度は検討委員会の最終年度となり、引き続き子どもたちにとって最適な学習環境、そして学校の在り方について忌憚のない意見をいただきたい。

３事務局より
・新任委員紹介（布佐南小学校長、布佐中学校長挨拶）
・布佐中学校区小中一貫教育グランドデザインの説明
　令和５年度～令和12年度　各中学校区の児童生徒数の推移の説明

（事務局）事務局からは布佐中学校区の小中一貫教育グランドデザインの資料を配布している。
布佐中学校区の小中一貫教育グランドデザインは、子どもたちにとってよりよい環境について考えていくためのベースになるものの一つとして非常に重要なものであると考えている。布佐中学校区は我孫子市の中でも早くから小中一貫教育に取り組んでおり、グランドデザインは子どもたちの実態を十分に踏まえた上で、かつ、地域・保護者の願いも十分に取り入れた形で作成されている。
グランドデザインの中にある布佐スタンダードや布佐カリキュラムは、自身（事務局注：現学校教育課長）が布小に勤務していた当時に三校の職員が何度も話し合いを重ねて取り組み始めたものであり、布佐中学校区の小中一貫教育は既に10年以上の取り組みになると思う。グランドデザインの土台となっている保護者や地域の方々の願い（「歴史とともに歩むまち布佐」、「ふるさと布佐を心に刻み、その歴史と文化を語り伝える人材を育てる」）と、児童生徒の実態、この２点を踏まえた上で、布佐中学校区が目指す15歳の理想の生徒像に向けて三校、そして家庭と地域が連携して子どもたちを育てていくためには、布佐中学校区の学校はどうあるべきかという視点で検討をお願いしたい。
また、もう一つの資料「検討視点と施設形態のメリットデメリット」の表については、学校規模と施設形態から一般的に考えられるものを事務局にて挙げ、参考資料とした。

これらを参考に布佐中学校区三校が目指す小中一貫教育グランドデザインの実践を具体的にイメージしていただきながら、布佐中学校区のメリットデメリットについて検討をしていただくようお願いしたい。
（委員長）以前の会議の中でも説明があったが、布佐中区はこのグランドデザインに基づいて、三校で教育を進めている。今一度これを確認し、その上で児童生徒数の減少や、施設設備の老朽化等も含めて学校区の在り方について考えていくことになる。
それでは、「検討視点と施設形態のメリットデメリット」の表に沿って検討を進めたい。項目ごとに確認しながら、発議があればお願いしたい。
「項目１　学習環境」についていかがか。
（委員）昨年度の学校視察の際に、布小の児童数がすごく少ないということを伺った。今年の新１年生は16人と伺っている。昨年度よりも新入生が少なくなり、人数が少ないというのを感じているか。まだ、新年度が始まったばかりではあるが、子どもたちの様子を伺いたい。
（委員）現在は173人在籍で、１年生通常学級の在籍数が12人。他校は30人規模なので、教室にはゆとりがあるが寂しい感じがする。目が届きやすいが、学習も多様な意見が出てこない、子どもたちの人間関係も多様さがないと感じる。
（委員）南小はいかがか。
（委員）南小の１年生は23人である。１学級30人前後のイメージがあるので、23人は少人数であると感じる。１年生のスタートとしては、一人一人に目をかけられるので、子どもたちは落ち着いて学校生活に慣れているという良さは感じている。ただ、先ほど委員からあったとおり、社会的にも多様性が話題になる中、教育課程の工夫や子どもたちの人間関係の面で多様性という意味では弱いと感じる。
（委員長）布中はどうか。
（委員）布中はここ数年、２学級であり、学校の雰囲気はそれほど変わらず、昨年の卒業生よりも新入生が多く全体で15人増えている。ただ、今小学校で起きている現象が数年後、中学校でも起きてくる。生徒たちは部活動も始まって、本当に活気づいてよくやっている。また、中学校の中では少人数なため、きめ細やかに指導しており、１年生の不登校も少ない。小学校時代に不登校だ

った子も学校に来るようになってきているので、中１ギャップの解消などに小中一貫教育が良い方向に向かっていると感じる。
（委員長）各校新学期の様子を伺った。他にも質問、意見等あったらお願いしたい。
（委員）最近、特に小学生での特別支援学級の人数が増えていると思う。現状いかがか。
（委員）布小は特別支援学級が４クラス、27人の児童が在籍している。知的学級が２クラス、情緒学級が２クラスで昨年度から変更はない。特別支援学級は在籍数が最大８人であり、これは大規模校も小規模校も同じである。４学級あることについては、学校の規模にしては多い方だと考えている。
（委員）南小は特別支援学級３クラスである。情緒・知的学級ともに交流をしながら児童の特性に応じて授業を行っており、他校とも変わらないところである。特別支援学級を検討する児童もおり、数も増えてきている実感もある。
（教育長）特別支援学級について、我孫子市の令和元年度と今年度の数値比較は次のとおりである。
令和元年度：児童生徒数9,374人、通常292学級、特別支援85学級
令和５年度：児童生徒数8,445人、通常267学級、特別支援98学級
母数は減っているが、特別支援学級は増えている。
（委員）教員の負担はどのようなものか。
（教育長）特別支援学級の免許を持っていない教員が受け持っている実態があり、認定講習等で特別支援の免許を取るように推奨しながら進めているところである。
（委員長）布佐地区の学級数的には大きな増ということではないが、全市的には増えており、教員の負担については、免許取得のフォロー等が必要になっているといったところか。
（委員）布小は昨年度から教科担任制を行っており、３、４年生の算数に教科担任が入っている。専門の教員が行うことで、子どもたちの教科に対する興味関心が高くなり、授業の取組はよくなっているところである。これに伴い、若干ではあるが学力が向上しているのではないかと思う。教科担任制のメリットはあると考える。

（委員）クラス数が減ると教員数も減るため、教科担任がしづらくなるのではないか。
（委員）クラス数が減れば教員の数は減っていくものであるが、布小は学力向上のため算数の教科担任を配置していただいている。今後、小学生に対しても教科担任数が増えていけば、どの教科も専門的な先生が教えるので興味関心が高まり、学力も向上していくのではないかと期待できる。
（委員長）複数クラスがあれば学年内で分担して担任制を行っているところも多い。単学級だと一人でやらざるを得ないので難しい部分があるのではないか。
「項目２　学習内容」について御意見はあるか。
（委員）湖北台中学校の話になるが、教員が足りないために免許の無い他の教科を教えている事例を聞いた。申請によってそれも可能になるとあったが、布中においては、教員数が少ないが授業数は他校と変わらないので、どのように担当されているのか。
（委員）湖北台中学校の話は、おそらく免許外教科担任制度を利用して授業を行っていると思う。中学校は９教科あるため、小規模だと必ずしも人事がうまくいかず教科のバランスや、兼ね合いでそういうことも起きる場合がある。現在、布中では特別支援学級が４学級あるため担任以外の職員も多く配置されており、各教科で免許を持った教員が指導に当たっている。教員一人一人の持ち時間数もゆとりがあり、子どもに向き合う時間も取れているため、今年に限っては、恵まれた人員の配置となっている。
（委員長）単学級の中学校は近隣地域にもあり、複数教科を担当することは普通と感じるようになっているが、担当する先生からみれば教材研究など大変である。
（委員）南小について、クラブ数が少ない印象があるが現状はどうか。
（委員）布小は地域の方の協力を得て、郷土芸能クラブ他、９つのクラブ活動を展開している。４年生以上の活動で約90人、１つのクラブに10人程が所属している。本校は10学級のため、教員も10人しか配置できないということで９個のクラブを作っている。

（委員）南小は７つであり、教員数に準じてこのような形になっている。地域の方から色々な活動の話をいただくが、教員がいなくてはならないので、このような現状である。
（委員長）中学校の部活動も地域移行の考えが進んでいるところであるが、部活に入る生徒数が少なくなり、子どもの数が少ないので部活自体が維持できない地域もあり、その辺も検討していく必要がある。
「項目３　生活環境」についていかがか。
（副委員長）施設形態②にメリットデメリット併記となっている「布佐南小学校にとっては、新鮮な生活環境で中学校生活をスタートできる…」について、以前、布中に進学した南小の生徒が布小から進学の生徒とあまり馴染めずに打ち解けないケースがあった。当時の布中の職員も対策を立てて、各小学校に年間でいくつかの合同のイベントを実施した経緯がある。これを踏まえると、途中から入るということはメリットではないと考えるがいかがか。
（学校教育課長）御意見のとおり、布小と布中が小中一貫になっているところに、外から入っていくことは厳しい部分もあると思い、デメリットとしても記載している。南小では単学級ゆえに人間関係の方が少し複雑になった場合に、中学校進学時に布小の子どもたちと一緒になることで生活環境が変わり、気持ちの切替えができる子も出てくるであろう、という思いを含めてのメリットデメリット併記にしている。
（副委員長）それであれば、もっと早い段階から交流した方が良くなると思い、進学時のメリットとしては厳しいのではないか。
（委員長）新鮮な環境で中学校生活がスタートできるという言葉だけをとればメリットに感じるが、ケースバイケースであり、早めの交流が必要ではないかという意見をいただいた。
（委員）いくつか質問がある。児童生徒推計資料の中で、南小が令和６年から９年には増加傾向にある。令和10年は少し減り、11年に増えて、12年には減っている推移である。この令和６年から９年まで、他の学校はマイナスか横ばいなのに、なぜ、南小だけ増加傾向と推計しているのか伺いたい。
資料（検討視点と施設形態のメリットデメリット）について、各項目にあるデメリットの部分を解消するためには、という視点で議論ができれば良いと考え

ている。また、一体化後のPTA組織や学校運営協議会の在り方について疑問があるのだが、今回の資料ではどの項目に当てはまるのかが分からない。
（事務局）南小の児童数推計について、南小の学区に住んでいる子どもの人数のうち小学校の年齢となる人数を各年で合計した数値である。
（学校教育課長）資料については、あえてメリットデメリットを併記している。子どもたちのため、グランドデザインで目指している姿に近づけるために、デメリット解消にはどんなことができるのか、３つの施設形態についてどの方法がより良い環境になるかということを、ぜひ提案していただきたい。PTA組織等については、今回は「児童生徒」視点からの資料であり、今後「保護者・地域」視点の項目も準備しているのでその際にいただきたい。
（教育長）PTA組織等については、もし学校の一体化が行われたのであれば、その際にPTA・学連協で話し合いをしてもらうしかないと考えている。学校運営協議会に関しては、コミュニティ・スクールの推進にあわせて継続していくことになる。
（委員長）それぞれ３つの施設形態の場合についてメリットデメリットの項目があり、デメリットについては②番のパターンなら大丈夫ではないかとか、あるいは、③番みたいな形だったら解消するのではというように御意見をいただければと思う。
（委員）「生活環境」③の４つ目に「部活動数を増やせる」とあるが、一体型となっても中学生の人数は増えないのに部活動が増えるのか。
（学校教育課長）中学校の部活動について人数は変わらないが、小学校高学年のクラブ数が増えると考える。今後、中学校の部活動についても地域移行というような流れにもなっているため、意見をいただきたい。
（事務局）義務教育学校においては部活動の参加を小学校高学年から取り入れている学校もあり、部活動の参加人数というのが増える可能性もある。
（委員）我孫子市内では、吹奏楽と陸上は５、６年生からという流れであるがそれ以外のクラブはどのようなものか。
（事務局）吹奏楽部について、音楽部というくくりで広く扱う学校もあれば、合唱部と吹奏楽部と分かれている学校もある。③の場合、校内で必要に応じて子どもたちと作り上げていくというような形になると思う。
（委員長）「項目４　人間関係」についていかがか。

（委員）推計資料に戻るが、令和９年度の南小が184人に増えるが、単学級の見通しかと思う。一体化すれば２クラスになる可能性が高く、９年間の人間関係の固定という弊害は生じる可能性はあるかもしれないが、だいぶ改善される可能性は高いと思う。
（委員長）③のデメリット「人間関係の固定化が長く続くことによる弊害が生じる可能性がある」ということだが、現状の単学級で６年間過ごすことに対して、一体化すれば小学校も複数学級になるので解消されるのでは、という御意見をいただいた。
「項目５　学校行事」についていかがか。
（委員）三校を施設一体型小中一貫校とした場合、布小布中の位置に建替えという案があったと思うが、そうなった場合、行事で保護者が集まる際の駐輪場等の確保はどうなるのか。
（委員）現在の布小の第三駐車場の広さがあれば、駐車場、駐輪場のスペースは取れると思う。
（委員）布中の場所に運動場など広くとれれば解消するのではないか。
（委員長）布小入口の細い道も広くなる計画があり、実際に三校一体型の校舎を作るとなった場合には使い勝手の良い形になることを期待したい。
（教育長）一体型とするのであれば、駐輪場等の確保は当然のことなので、そういった部分を含めて設計等をしていきたいと考えている。
（委員）南小の運動会では家族毎にスペースを用意できるが、一体型となって保護者全員が集まったときの校庭の余裕はあるのだろうか。
（委員長）三校が一緒になったときの体育祭等の取扱いについては、考えていかなければということである。布小の運動会はいかがか。
（委員）布小は午前中に競技を行い、昼は家族と一緒に弁当を食べていた。スペースについても十分対応できている。
（委員長）中学校は９月開催だがどうか。
（委員）布中も午前中に競技を実施し、給食を食べ、後片付けをして下校という形で予定している。暑い時期だが、テントの設営などで地域の方にも協力をいただいている。
（委員）学校行事については、三校の地域学校協働活動推進員で集まり、イベントの計画をしている。２月に布小で昔遊びを教えた際は、南小の地域学校協

働活動推進員と行事の資料を共有するなど協力して活動している。三校一体型小中一貫校となった場合でも、行事・イベントについても問題ないと思う。
（委員長）現状でも三校の地域の方で協力して取り組んでいただいているとのことであった。
「項目６　通学距離」についてはいかがか。
（委員）南小はパトロールに力を入れていて、子どもの見守り隊が朝も見守りをしているので、バスを出さなくてもいいのではないか、我々が元気な限りは見守れるよというような意見もいただいている。
（副委員長）国道356号線から布小に入るところについて拡幅工事の話も聞いている。通学距離が長くなることについては、一体型の校舎が実現するならば、拡幅工事も完了してスクールバスの運行も考えられるので、デメリットにはならないのではないか。
（委員）通学距離について、例では南小学区（事務局注：学区端の南新木２丁目）から南小まで1.8㎞、布小までの場合は2.9ｋｍとある。自身は印西市との境である布佐３丁目に住んでいるが、付近の子はいつも布小まで通っているため、特別距離が遠くなるのがデメリットとするのは違和感がある。また、「小学校段階においては、放課後の交流関係が居住地区の友人に限られてしまう」とあるが、偏るのではなく、逆に広がるのではないかと思う。子どもたちにアンケートをとると、地域の色々な事業や祭りなどに参加したいという、子どもたちが素直に思っている意見が結構たくさんある。居住地区だけでなく、交流がもっと深まるのではないかなと考える。
（学校教育課長）南小の子どもが布小の位置に向かう場合、反対に布小の子が南小の位置に向かう場合に、距離として長くなるというのは、子どもにとってはデメリットと捉える部分もあるのではとして挙げていた。交友関係の広がりについて、メリットとして御意見をいただき感謝する。
（副委員長）去年の11月に布中生徒会の役員と、学校運営協議会の委員で懇談会をした。その席で、私達が思っている以上に、生徒たちは地域のことや、自分の親世代間に関することについても色々考えているということが分かり感動した。先の話にも関連するが、その生徒会の中には南新木から来ている生徒もいて、この子どもたちは、布佐の伝統行事の情報がなかなか入ってこない、入ってきてもなかなか馴染めないと言う。なぜかというと、やはり小学生の時に

布小の児童とあまり関わりがないため、いきなり布中に来てもその中に飛び込めないという思いも話の中に出てきた。生徒からの提案もあり、以前も行っていた三校の挨拶運動をスタートしたり、自治会や地域の情報が手に入るように、布中の生徒昇降口の所に自治会の掲示板を作っていただいたりした。
生徒の話をよく聞いて、地域の大人が一緒に考えることによってメリットに変わってくると思う。
（委員）布小、南小の子ども同士仲良くなっていけるのではないかと思うし、保護者同士もそうなっていけると思っている。しかし、南小の子どもには南新木の子も多く、（布小の位置に通うのならば）新木小の方が近いから新木小に行きたいという声もあり懸念している。
（教育長）もし、三校一体型一貫校を作るとなった場合には、学区についてしっかりと線引きはしていかなくてはならないと考えている。
（委員長）新しい学校ができれば、それに伴う学区の編成も当然検討が必要だということである。
次の「項目７　通学手段」にも関わってくるが、距離が遠い近いは、徒歩の場合とバスの場合でも考え方が変わるのではないか。新木小学校では中学進学時は湖北中になり、かえって遠くなるということもある。
（委員）低学年だと保護者が付き添いをして途中まで一緒に登校する子もいて、その負担を考えると、やはり新木小の方が近いかな、という意見もある。行事の際以外にも保護者が学校に行く用事は多く、頻繁に通うことを考えると、南新木の保護者は、新木小を考える人が多い印象を持っている。
南新木の学区の線引きに関して、兄弟等の理由については学区変更が可能と聞いていたが、保護者の中には「選べるから新木小にした」と話す人もおり、線引きが曖昧なのではないか。
（委員）距離の近い遠いより、バスが出るかどうかという方が重要とも考える。
（委員長）南新木の学区の経緯は、10年ほど前に南新木地区の人数と、新木小に通う際に踏切を渡る危険性の話から学区検討があったと記憶しているがいかがか。
（教育長）南新木の学区については、成田線の踏切を渡って新木小に通学することの危険性を鑑み、南小に変更した経緯がある。学区外申請については、兄

弟で同じ学校に通学することや人間関係などの事情によって認めているところである。
（副委員長）南小の学区の件について、過去に南小に９人しか新入生が入らない想定になる時期があり、その話が地域に広がって南小は閉校になるのではないかという心配する方がたくさんいた。ちょうどその時に南新木地区で多くの宅地造成があり、新しい家がどんどん建っていたため、南新木１、２丁目を南小に変更したという経緯があった。また、新木小へ通う際には線路を渡ることになるため、その危険性もあって変更があった。当時は賛否両論あったため、選択制という形をとったのではなかったか。
（委員長）経緯については、そのような感じでよいか。
「項目７　通学手段」についてはいかがか。
（委員）南小学区の子どもたちにスクールバスが必要という件は疑問に思う。南小から布小まで来るのに地域によっては2.9㎞とあるが、過保護にして良いのかと思う。子どもたちの社会に通用する判断行動やたくましさなど、過剰に保護して損ねてしまうのではないかと懸念する。
（教育長）意見としてありがたく受け止める。我孫子市では、小学校の通学距離の基準は約1.5㎞以内としてある。布小で一番遠いところは、布佐酉町の地区で２㎞弱である。南小は説明のとおり南新木２丁目の20番辺りから南小まで1.7㎞程で、南小から布小の距離が1.2㎞である。合計2.9㎞の通学となると、やはり小学校低学年の歩幅では相当な時間が掛かると予測される。もし、三校一体という形になるならば、子どもたちに負担をかけないという点もあり、スクールバスの利用もあるだろうという考えである。
（委員）スクールバスであるが、いい悪いは別にして、必要と考える。特に低学年の場合、1.5㎞以内という規定があるのであれば、それを超える距離を低学年に歩かせるのはどうかということであり、保護者の方から苦情が出てくるのではないかと思う。バスを使う児童の年齢条件を設けるか、朝早くや放課後遅くの部活動に対してバスの運行時間をどうするか等、バス利用の問題点や検討点を詰めた上で、バス利用することには賛成である。
（委員）今朝、都のファミリーマートの交差点に７時に立って見守っていたが、中学生はその時間に通学しており、布小の小学生も７時10分には、通学をしている。７時頃には家を出ていると思うが、通学距離が３㎞となると、だい

ぶ早く家を出てくる可能性があるので、例えば、２㎞以上の距離があれば、自転車にするとか、バスにするとかの考慮は必要と考える。
（委員長）③の距離的デメリットであるが、スクールバスや自転車の利用ということを加味しながら検討していく必要が大きいということである。
「項目８　交通安全」について、①②はデメリットがないが、③では児童の行動範囲拡大に伴って危険、リスクが増えるのではないかとある。例えば、先ほど意見が出たが、南新木の方の地域の見守りが充実しているということであれば、地域との連携を図りながら危険な部分を減らしていこうか、と考えていかなければと思う。
（委員）布佐地区では、高齢者の方々も含めて、朝の登校時は協力してくれる方が多い。そのため、決まったら地域の方々で色々分担して行っていけるので、布佐地区では心配はないと思う。
（委員長）登下校についての見守り等については、地域の協力があるとのことであった。
「項目９　地域理解」についてはいかがか。
（副委員長）②のデメリットで「布佐中学校区全体を私たちの地域として認識し地域学習や地域交流を行うことが難しい」とあるが、コミュニティ・スクールということで、三校合同で学校運営協議会の委員、推進委員、各自治会の防犯パトロールなどがあり、布佐地区全体を地域として認識している。今後も同じように、地域全体で支えていくと思う。
（委員長）「私たちの地域として認識が難しい」というのは、例えば南新木の子たちは布小の学区について分かりづらい、布小の子たちは南新木について分かりづらいというふうに捉えればいいのか。
（事務局）そうである。
（委員）南小に赴任して感じることは、本校の学校運営協議会委員のみならず、布小、布中の委員とも学区を超えて話ができており、地域の方が布佐中区全体で見てくれているのを感じている。子どもたちの地域学習でも、布小区にある飲食店の名前が挙がったり、気象台公園など布佐中学校区全体を見学したいというような話があったりしている。地域学校協働活動推進員も南小区だけでなく、布佐中区の方で話をしていただける方にお願いすることで、中区一体となっていることをとても感じている。また、教員も小中一貫教育ということ

で布佐中区全体として子どもたちに指導をしているという意識もあり、この「私たちの地域」というのはまさに布佐地区一つというふうに思うところがある。
（委員長）「私たちの地域として認識し地域学習や地域交流を行うことが難しい」というデメリットは、現状既に地域としての意識が広がっていると考えられるのではないか。
（委員）先生方にもぜひ地域のことを勉強していただきたいと思っている。先生方は大体３年ぐらいの任期のため、新しく来た先生方にも地域のことを知っていただきたい。
（委員長）教員が地域に出ていくことは大変な部分もある。以前、布佐地区の祭りに朝からずっと参加している先生を見て大変だと思ったことがある。しかし、先生が地域と密着していると、家庭訪問も楽だったという話も聞いた。良いことも悪いことも含めて色々だと思うが、教員も地域の中に入っていくのは必要なことかもしれない。
（委員）布佐地区では竹内神社のお祭りがあり、地区ごとに山車を持っているが、その中には南新木は入ってなく、南新木は歴史がないので自治会で小規模な祭りをするぐらいしかない。また、南小の近くに浅間神社があり、昔は７月１日に先生方が神輿を担いでいたという話を聞いたことがある。今も７月１日にはいつもより早帰りになっているのだが、早帰りになっている意味を知ったのも南小で支援員をしている方から聞いたからであり、ここには「私たちの地域」とあるが、なかなか難しいなという印象である。
（委員）浅間様というのは、南小ができる前からずっと何百年も続いている鎮守様であり、子どもたちの成長を願うお宮である。南小ができてから布佐下の子どもたちが南小に行くようになり、祭りに携わる方々から声がかかって参加するようになったという経緯である。それから、竹内神社の例大祭は９月14日から開催されるが、南小区に住んでいる子は布小区の友達などの個人的な繋がりの中で参加するのが主であった。コロナ禍のため３年間休止していたが、今年から再開することになっている。三校にアンケートを取ると地域の祭りに参加したいという要望が多い。今年は例大祭実行委員会でも、子どもたちが参加し地域の輪に入れるような施策を考えている。強制ではなく、こういう地域の祭りがあるので是非一緒に参加していただければという考えである。

（委員）学校外でのお祭りなども大切な部分ではあるが、この「私たちの地域」としての認識については、小学校・中学校の授業の中で地域学習を進めているところでもある。「地域を知る」という学習を充実していく中で、歴史的なものとしてお祭りや浅間神社について学んでいる。行事に参加する、しないではない地域学習の一環があることを理解いただければと思う。
（委員長）それでは、最後の「項目10　地域の一員としての自覚と醸成」について、③に「地域の捉え方が大きくなり、自分事として捉えにくい（自分の住んでいる所からは遠い場所の話だと思う。）場面が出てくることがあるかもしれない」とのデメリットがあるが、一貫校になった場合であれば、子どもたちはその学校の学区のことを色々と考えながら動くので、他人事にはならないと感じる。各委員の話を聞いても、布佐中区では問題ないと感じるためデメリットから削除してよいかと思うが、いかがか。
（各委員異議なし、また追加の意見もなし）
以上をもって本日の会議は終了とする。活発な意見等を多くいただき感謝する。

（以上）
次回開催は７月10日（月）を予定しています。